

中野区子ども・子育てアンケート調査結果報告書について

1 調査概要

- (1) 調査対象 ①乳幼児（0歳～5歳）の保護者
②就学児童（小学校1年生～6年生）の保護者
- (2) 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
- (3) 調査方法 郵送配布・回収による無記名アンケート
- (4) 調査期間 平成30年9月14日～10月22日

2 回収結果

	乳幼児（0歳～5歳）	就学児童（小学校1～6年生）
発送件数	4,582	4,573
有効回収件数	2,639	2,473
有効回収率	57.6%	54.1%

3 集計結果の概要

(1) 親の就労状況及び就労意向

- ① 育児・介護休業中である場合を含めると、母親のうち、乳幼児で67.9%、就学児童で73.8%が、フルタイムまたはパート・アルバイト等で就労している。就労していない母親のうち、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」としたのは乳幼児で22.6%、就学児童で28.2%となっている。
- ② 両親の就労形態では、「フルタイム共働き」が最も多く、乳幼児で46.9%、就学児童で29.4%となっている。「フルタイム・パート共働き」は、乳幼児17.7%と比べ、就学児童は29.0%と多くなっている。
- ③ 前年度の年収をみると、父親は、「600万円以上」が最も多く、乳幼児で49.7%、就学児童で58.0%となっている。母親は、「200万円未満」が最も多く、乳幼児で30.8%、就学児童で49.5%となっている。
- ④ 育児休業を取得したまたは取得中である割合は、父親が4.2%、母親が51.5%となっている。取得していない理由をみると、父親は「配偶者が育児休業制度を利用した」が最も多く33.9%、母親は「職場に育児休業制度がなかった」が最も多く23.8%、次いで「子育てや家事に専念するため退職した」が21.6%となっている。
- ⑤ 育児休業を取得したまたは取得中である母親がいる世帯を、想定世帯収入別にみると、400万円以上が56.1%、400万円未満が28.0%となっている。
- ⑥ 育児休業を取得し、職場復帰した母親について、希望より早く復帰した理由は「希望する保育園等に入るため」が66.5%、希望より遅く復帰した理由は「希望する保育園等に入れなかったため」が32.1%となっている。

(2) 保育園・幼稚園の利用状況及び利用意向

- ① 乳幼児が利用している教育・保育事業は、「認可保育所」が52.9%で最も多く、「幼稚園（通常の時間のみ）」が24.2%、「幼稚園（預かり保育も利用）」が15.0%

となっている。

- ② 乳幼児が定期的に利用したいと考える事業は、「認可保育所」が 57.8%と最も多く、「幼稚園（預かり保育も利用）」が 36.8%、「幼稚園（通常の時間のみ）」が 23.6%、「認定こども園（保育園枠・長時間利用）」が 20.0%などとなっている。

（3）放課後の過ごし方

- ① 学童クラブについては、就学児童の 13.4%が利用している。利用意向をみると、低学年（1～3年生）の 42.9%、高学年（4～6年生）の 14.8%が「利用したい」としている。
- ② キッズ・プラザについては、就学児童の 16.7%が利用している。利用意向をみると、「自校であれば利用したい」が 33.0%、「利用したい」が 22.8%となっている。
- ③ 児童館については、就学児童の 28.7%が利用している。利用意向をみると、「利用したい」が 46.0%となっている。

（4）その他の事業

- ① 一時預かり事業については、乳幼児の 25.0%が利用していて、利用が最も多いのは「幼稚園の預かり保育」で、次いで「保育園の一時保育」、「ファミリー・サポート事業」などとなっている。
- ② 子育てひろばについては、乳幼児の 27.1%が利用している。利用意向をみると、「現在は利用していないが、今後利用したい」が 20.6%となっている。

（5）子育てに関する状況

- ① 仕事のある日に乳幼児の子どもと接する時間について、父親の理想は、「4時間以上」が 26.4%、次いで「2時間くらい」、「3時間くらい」のところ、現状は「1時間くらい」が 18.7%と最も多く、次いで「ほとんどない」、「2時間くらい」となっている。母親の理想は、「4時間以上」が 74.8%、次いで「3時間くらい」、「2時間くらい」のところ、現状は「4時間以上」が 48.8%と最も多く、次いで「3時間くらい」、「2時間くらい」となっている。
- ② 子育てや教育に関して気軽に相談できる人や場所について、乳幼児・就学児童ともに、「あなたの配偶者、パートナー」が最も多く 8割台、「友人・知人」「その他の親族」がそれぞれ 6割台となっている。
- ③ 区内の相談窓口・サービスに関する情報の入手方法について、乳幼児・就学児童ともに、「中野区ホームページ」、「中野区報」がそれぞれ 5割前後、次いで「通っている幼稚園・保育施設等」「通っている小学校等」が 3割超となっている。
- ④ 地域活動について、参加している人でみると、乳幼児・就学児童ともに「その他の町内会・自治会活動」に「親子で参加している」が最も多く 2割台、次いで「子ども会、子どもと共に進む会」に「親子で参加している」などとなっている。
- ⑤ 進めてほしい子育て支援策については、「子どもが安心して放課後を過ごせる居場所づくり」「児童手当・子どもの医療費・保育料・教育費など子育て費用の助成」「犯罪から子どもを守る体制の整備」が上位を占めている。